

## 市議会定例会

平成22年第1回常陸大宮市議会臨時会が8月11日に開会され、次の議案が審議され同意されました。

### 人 事

○監査委員の選任について

岡崎 榮一（鷺子）

（敬称略）



### 議長・副議長

議長

仲田 好一



副議長

川上 博



### 各常任委員会委員の構成

総務常任委員会（8人）

委員長 高村 和郎

副委員長 小森 敏雄

委員 木村 勝昭

木村 勝昭

淀川 茂樹

内田 勝廣

吉川 美保

小森敬太郎

大貫 道夫

文教福祉常任委員会（7人）

委員長 掛札 行雄

副委員長 野上 台一

委員 金子 卓

秋山 信夫

岡崎 榮一

川上 博

田沢 祐男

経済建設常任委員会（7人）

委員長 武石 寿長

副委員長 柏 宏明

委員 堀江 鶴治

仲田 好一

小橋 輝夫

木村久美子

萩野谷 勉

議会広報常任委員会（8人）

委員長 吉川 美保

副委員長 野上 台一

委員 木村久美子

淀川 茂樹

小森 敏雄

小森敬太郎

柏 宏明

萩野谷 勉

議会運営委員会（7人）

委員長 木村久美子

副委員長 武石 寿長

委員 木村 勝昭

掛札 行雄

岡崎 榮一

高村 和郎

吉川 美保

（敬称略）

## 報告書『大宮の地名』完成

11年かけて、大宮郷土研究会のメンバーが旧大宮町域の小字名を調査し、このたび一冊の報告書にまとめました。副題は「市民による旧大宮町域の地名調査の報告」。郷土研究会が会費を積み立て、それを使って刊行したものです。

現在との土地利用の比較のために、大正4年測図の2万5千分の1地図や江戸時代の村絵図、航空写真なども資料としてカラーで掲載しています。町村合併によって失われた地名や、山仕事が行われなくなって忘れられつつある山中の地名など、昭和50年代の地籍図に掲載された地名を中心に報告しています。A4判230頁。

大宮郷土研究会の事務局である、常陸大宮市歴史民俗資料館大宮館で一冊2000円で販売しています。



■問い合わせ先■  
歴史民俗資料館大宮館  
☎52-1450  
※月曜・祝日休館

更生保護女性会発足

犯罪のない明るい社会を実現するため、女性の立場から貢献することを目的として設立された常陸大宮市更生保護女性会の設立総会が、6月25日おみやコミュニティセンターで開かれました。

会員は41人。初代会長には石井てる子さんが選出されました。今後、関係団体との連携を深め、青少年健全育成などの活動を展開していきます。



善意をありがとう

《常陸大宮市へ》 敬称略  
車椅子2台



中央技術株式会社  
代表取締役社長 大平源一

夜空に「ひたちのおみや」

平成22年3月30日、北海道在住のアマチュア天文家渡辺和郎さんと円館金さんが発見した二つの小惑星に「ひたちのおみや」と「美スター」が正式に命名され、7月31日の花立山星まつりで命名額の授与式が行われました。

この命名は、美和地域花立自然公園の天文台「美スター」の運営スタッフ高橋英俊さん（龍ヶ崎市）と渡辺さんとの交流がきっかけとなり、20年にわたる市の支援と美スターの活動に賛同した渡辺さんの計らいにより実現したものです。

10月上旬頃、これらの星は、「ひたちのおみや」はやぎ座付近、「美スター」はおとめ座付近にあるとのことですが、どちらも天文台「美スター」の82センチの反射望遠鏡でも見えない明るさだそうです。しかし、今日も空のどこかを回っていると思うと、星空を見上げるのが今より楽しくなるのではないのでしょうか。



▲左から渡辺さん、中川星まつり実行委員長、三次市長

奥久慈なすボランティア

7月31日から8月1日にかけて、奥久慈なすの収穫の手伝いのため、東京都、千葉県、神奈川県、茨城県内の都市部に住む10の方が常陸大宮市の大宮・美和・緒川地域を訪れました。

この事業は、昨年の参加者からの「日帰りではなく1泊で本格的に農業を手伝いたい」という声を受けて企画されたもので、葉かき、芽かき、そして収穫と出荷のための袋詰めを行いました。

農業の担い手が不足し、高齢化の進む中、農繁期の収穫等のお手伝いは農家にとって大きな力となります。

参加者と農家の方との交流も深まり、今後につながる農作業体験となったようです。



猛暑の中そばの種まき

7月31日、良質な農産物を生産している塩田地区のPRと食べ物の大切さを多くの人に理解してもらうことを目的として、塩田ふるさと協議会（大貫孝夫会長）が「塩田そばの学校」の参加者を募集し、そばの種まきを行いました。

県内外から26人が参加し、本格コースと体験コースに分かれ、地元農家の指導のもと、約25aの畑に「常陸秋そば」の種をまきました。

秋にはそばを収穫します。



水の不思議を体験!

7月31日、図書館で茨城県立高萩清松高等学校の萩谷校長を講師に迎え、おもしろ理科実験が行われました。

沖縄石垣島地方に伝わる教訓茶碗を使った実験を初め、さまざまな実験が行われ、参加した51人の小学生と保護者の方々は、たくさん水の不思議を体験しました。



▲プラスチックのコップとストローで作った教訓茶碗で水のこぼれ方を実験



※教訓茶碗

底に穴が開いているのに、お茶を入れてもなぜかこぼれない不思議な茶碗。しかし、器の中の八分目ぐらいの「どこか」を境にそれ以上入れると全部こぼれてしまいます。何事も欲張らず、八分目が良いのだということを教えてくれるのだそうです。

市民号で上野動物園へ

8月22日、子ども達を対象に水郡線を利用した「常陸大宮市民号」を運行しました。これは、市民相互の親和と水郡線利用の促進・啓発を図るために実施したものです。

152人の参加者は市内の5つの駅（下小川・山方宿・野上原・玉川村・常陸大宮駅）からそれぞれ乗車し水戸駅へ向かいました。そして、水戸駅から常磐線に乗り換え上野駅へ。

目的地の上野動物園は自由行動で思い思いの楽しいひと時を過ごしました。

普段は水郡線を利用する機会は少ないという方がほとんどでしたが、水郡線の利便性を体験することが出来ました。



いっしょにまちづくり

常陸大宮市に環境共生社会実現の可能性を見る

茨城大学人文学部 社会科学科4年 安藤 康平さん



私は環境共生社会の研究をしています。環境共生社会とは、人間の活動を自然と調和させ相利共生する社会のことで、世界中で環境が議論されているなか、その実現が急務となっています。

茨城大学と市の連携事業として行われ、私も参加している塩田地域活性化プロジェクトでの畑作業は、環境共生社会の実践例であると考えています。自分達で育てた野菜を自分達で食べることによる環境意識の向上や、地域の方と外から来た私達との、資本を媒介としないネットワークの構築など、新しい社会を作るために必要な要素がたくさん含まれているからです。私は、御前山ビオトープの活動にも注目していて、現在、執筆中の卒業論文に活かしたいと思います。

※市と茨城大学とは相互に連携協力し「豊かな自然と調和した安心・快適な活力のまち」を目指して各事業に取り組んでいます。

まちをきれいに

栄町環境美化クラブ

8月27日、栄町環境美化クラブは、栄町跨線橋下を中心とする栄町内の草取りとごみ収集を行いました。

同クラブは、町内を住みやすい環境にしようと平成19年に発足した団体で、毎月第2・4土曜日、町内の公共用地の清掃等と、廃油の回収を行っています。



また、活動は、茨城県実施の県民参加の森づくり事業や、美和地域の尺丈山「百樹の森」整備事業にも協力する等広範囲に亘り、市の環境市民会議やボランティア連絡協議会にも所属し、環境保全や福祉活動に取り組んでいます。

これらの活動により、環境等への意識の高まりは勿論、町内の方が触れ合う機会が増え、以前よりも親睦を深めることが出来たとのこと。現在会員は45人。楽しく住みよい地域づくりを目指し活動しています。